

## 南相馬へ支援物資を届ける旅

2011年10月10日14時、南相馬市でボランティアの活動をしている椀澤さんの元に911 KANAGAWA と Twitter で知り合った方や個人的な友人から集まった心のこもった支援物資を届けるために横浜の家を出発した。

同行者は地元の後輩であり、同じ子供を持つ父親として現在の放射能汚染から子供たちをどうやって守れば良いのかなどを真剣に語り合える大切な仲間である O くんである。ちなみに O くんは、僕が Twitter から発信した「福島第一原発事故の危険性」「屋内退避の必要性」に反応し、3月12日から数日間を家族と共に屋内退避して過ごしてくれた。

横浜から福島県南相馬市に向かうには、東北自動車道を通ることになる。

放射能汚染をできるだけ避けるルートを考えるべく参考にしたのは群馬大学の火山学者である早川由紀夫氏が作成してくれた通称早川マップと、9月になってようやく行われた文科省による航空機モニタリングによる空間線量マップとセシウム沈着量マップである。

これによれば、宇都宮を過ぎたあたりから空間線量が  $0.2 \mu\text{Sv/h}$  を超え始め、そのあと降り口である福島西までは上昇傾向である。

深夜の高速道路は空いていたので、上河内 SA まではあっという間。車内の空間線量は  $0.3 \mu\text{Sv/h}$  まで上昇。航空機モニタリングマップによると、この先は  $1.0\sim 3.8 \mu\text{Sv/h}$  のエリアを高速道路が貫くかたちになる。高速道路は山間を進む、風も同じように通り抜けるだろうと予測できる。放射能を含んだ雲、放射性ブルームが風に乗って移動するときの経路としては十分に想像できる地形である。

航空機モニタリングマップによる黄色エリア ( $3.8\sim 9.5 \mu\text{Sv/h}$ ) には含まれないのだが、安積 PA の車内の放射線量は  $0.5 \mu\text{Sv}$  を超えた。

<http://twitpic.com/6yh41l>

福島駅でもうひとりの同行者 S くんをピックアップするために福島西で高速道路を降りた。走りながらインスペクターのパンケーキ部（測定窓）を外に向けて計測。  $0.3\sim 0.6 \mu\text{Sv/h}$  の振り幅である。待ち合わせ場所の福島駅東口の車内の放射線量は  $0.4 \mu\text{Sv/h}$ 。

駅周辺の人々のマスクの着用率は極めて低い。大人は30人にひとり、子供たちも20人にひとりくらいの割合である。

Sくんをピックアップし、福島第一原発爆心地から30km圏ぎりぎりにある道の駅南相馬へ。

インスペクターの計測音をONにする。

車内はガイガーカウンター独特の音が響き、緊張が高まる。

航空機モニタリングマップの赤と黄色ゾーン(3.8~19.0 $\mu$ Sv/h以上)を大きく迂回するために107号線を使って阿武隈川沿いに進む、このルートは0.1~0.2 $\mu$ Sv/hと放射線量が低かった。そのあと349号線から113号線へと一時宮城県を通り沿岸部を目指す。

113号線の先にあったのが相馬港。

<http://www.youtube.com/watch?v=OvEJygvczog>

車内の放射線量は0.3 $\mu$ Sv/h。

しばらく周囲を視察した。上記の動画映像よりは清掃が進み綺麗な状態になっていた。

相馬港から海岸線を南下。被害にあった倉庫、打ち上げられた船、崩れた崖、左手にはかつての原釜尾浜海水浴場が見える。砂地は津波でえぐり取られるように破壊され、構造物を破壊されたトイレの基礎部分が剥き出しになっていた。

被害を免れた橋を渡り松川へ。被害の少ないトンネルを抜ける、かつて松川浦と呼ばれ、「松川十二景和歌」が唄われるほどの絶景は失われ、大洲公園へと続く海岸道路は寸断されていた。

◆寸断される前の映像

<http://www.youtube.com/watch?v=p4nucsD12nM&feature=fvwrel>

◆松川浦からうまれた芸術

[http://www.city.soma.fukushima.jp/kanko/matukawaura\\_kahi.html](http://www.city.soma.fukushima.jp/kanko/matukawaura_kahi.html)

◆松川浦のすがた

[http://www.city.soma.fukushima.jp/kanko/matukawaura\\_naritati.html](http://www.city.soma.fukushima.jp/kanko/matukawaura_naritati.html)

松川浦を後にし、38号線から6号線へ。

広大な平野に無慈悲な津波の詰めあとが残っている。

数百軒の建築物の基礎部分だけしか残っていない地域があり、1階部分を壊滅された3階建ての鉄筋の建物、広大な面積が津波の被害にあっていることを改めて実感させられる。

◆Googleマップ

<http://maps.google.co.jp/maps?hl=ja&tab=ll>

地図画面と航空写真を交互に見比べてみてください。

待ち合わせまで時間があつたので、少しでも線量の低い場所を探してすこし休憩。

そのあと道の駅南相馬へ。

駐車場に入った所で、待ち合わせをしている椀澤さんから電話。

駐車場にいる椀澤さんを目視で確認。合流し、自己紹介と握手を交わす。

僕は言ってみればこの人に会いたくて南相馬に向かったのが、嬉しい時間だった。

椀澤さんは、今29歳。彼自身も被災者であり、原発事故により土地を追われている。

最初に入った避難所に行政の管理者が不在だったために、自身がそのポジションに就いて活動したことが今現在の支援活動に繋がっているという、聡明で素晴らしい青年である。

911KANAGAWA の実行委員である T さんの **Twitter** でのやりとりから、椀澤さんが教育、福祉、医療、物心、格差是正、運営や指揮の補助等を中心にボランティアを行っていることを知り、物資を支援することになったという経緯である。

まずは近くにある支援物資保管所へ。

支援物資保管所はパチンコ屋さん。管理してくれているのは店長さんとスタッフの方。

2階のスペースでは放射能について学べる勉強会を開いたりしているということ。郊外型の大型店舗なので駐車スペースがあって良い環境です。

店長さんは前日に台湾から届いた大量の水を相馬市の養護学校などに配りに行っているということなので、会わずに行くことに。

「いただいた物資は責任を持って必要な方に届けます」

スタッフの方からいただいた言葉です。

物資を支援してくれた方の想いも預けて来ました。

支援物資保管所を後に、椀澤さんと話すために喫茶店に。

南相馬では多くの店が閉まっているためファミリーレストランも常に開いている状態ではなく、最初に向かった喫茶店も閉店中。2軒目のお店へ。

椀澤さんは僕が思っていたよりも若く、とても感じのいい好青年。

現在の支援状況、津波→原発事故→避難生活→支援活動への経緯を明確にお話してくれます。普段から現場で活動し、様々なことに頭を悩ませ、解決してきた者にしか語れないノウハウが詰め込まれていました。

巨大な地震と、それが引き起こした人類史上最悪の原子力災害。その爆心地からわずか数十キロの地点でサバイバルしてきた人間にしか語れない、表現することのできない話を聞く事が出来たことに、いまさらながら感謝の気持ちです。

先に書きましたが梶澤さんは最初に入った避難所にリーダーがいなかったため、自ら志願してそのポジションに就きます。

これは常時ではありえないことですが、非常時において彼の機転は採用（というかそれを判断する人がいなかったと想像する）され、聡明で行動力のある彼はそこでかなり重要な役割を果たしたと思います。

14日の時点で、原発の最悪な状況を知り合いから伝えられ、津波の被害で常軌を逸している避難所から残り少ないガソリンの車に乗って家族で福島市方面に避難したといえます。そしていくつかの避難先を転々とする日々が続きます。

その間にスクリーニングを受け、そのスクリーニング証明書（といってもただの印字された紙切れ）の有無が、県外避難の条件になるほど重要なことだとも知る。

#### ◆スクリーニング

<http://www.noto-hospital.nanao.ishikawa.jp/topics/20110323/4d8985078efb0.jpg>

#### ◆共同通信社記事

<http://www.kyodonews.jp/feature/news04/2011/04/post-2099.html>

とにかく彼の被災地サバイブマニュアルはここでは書けないほどに凄い。経験させられることになった様々な被害から人々を守るためのノウハウが集積されている。ひとことで言うなら、通り一遍ではないマニュアルということになるが、詳細は書かない。

物資で言えば、ずばり安全な飲料水、安全な食材が徹底的に不足している。

「安全な水」についてだけ、詳細を書くがあくまで私見という立場を理解して読んでいただきたい。

「安全な水が欲しい」ということは、「南相馬市、相馬市付近の水は汚染されていて飲めない」ということになる。このことが「安全な水が欲しい」と大きな声で言えない理由である。

横浜で物資を集めている時に、数人の方から「福島でも水は足りてるらしいよ、あまるほどあるって」と教えていただいた。しかし僕は梶澤さんから必要な物資リストを教えてもらっていたので、かまわず「安全な水」を集めた。

ふたを開ければこういうことだったのかと、納得した。

水は足りているのだ。

(汚染されているかもしれない) 水が。

南相馬、相馬市の水が、福島市の水が、郡山市の水が、汚染されていることになれば、その地域の飲食産業は壊滅してしまう。

現地でボランティア活動をし、数十年先の未来までの展望を描く彼にとっては身を裂かれる思いなのだ。その身を裂いて、安全な水を求めている。

県内産野菜についても同様のスタンスだと想像した。

継続的に支援するなら、食料と水である。

【読んでいる方へお願い】

支援活動は長期的に継続したいと強く想っています。

ひとりでは何もできません。ちからを貸してください。

支援活動のほかに、椀澤さんは放射能や線量計にも詳しく、除染業務業務従事者を育成するための講習会にも参加している。

<http://wwwcms.pref.fukushima.jp/download/1/2-josenkousyukai-annai.pdf>

横浜在住で放射能対策を考えている僕よりも、かなり正確な情報を持っており、把握している。放射線測定機の扱いにも慣れており、彼曰く「複数の測定機を持ち、特性を活かして計測することが重要」ということだ。これは重要である。

そして何より彼が取り組んでいるのは、支援格差の緩和である。

格差はどこにでも生じる。それは人間が自己欲求を満たそうとしたときに弱者から搾取することに長けているという生存特長をもっているせいである。

人間というのは、隙があれば弱者から搾取する、そこに様々な呼称を与え、不透明にし、搾取するのだ。しかし被災地の格差はもっとどうしようもない理由から生まれているようである。

それは、行政機関のトップダウン形式の運営そのものである。

先ほどは汚染されているかもしれない水がある、と書いたが、安全な水もあるのだ。他県から送られた支援物資の中にも飲料水がある。しかし、飲料水の安全性を確保しているという立場の行政機関は「安全な水」と「汚染されているかもしれない水」を「飲料水」と

いうくくりで同列に扱う。そして決まったルールどおりに、避難所生活であろうと、仮設住宅入居者であろうと、ひとり1本のペットボトルが配布されるということだ。

台湾や、関西のスポンサーから数トンという規模の水が贈られることもあるという。それでも日々消費される分はカバーできない。

問題は物資だけではない。

若手で支援活動をしている人が圧倒的に少ないということだ。

彼は「震災の所為にする」という言葉を使ったが、状況のすべてを震災と原発事故の所為にして働かず補償だけで暮らす若者が多く、しかし仕事は少ないわけではないという。

そんな中でこの5年、10年で2万人近くの人が疎開していくとも予想している。

セシウムの半減期は30年、その時になればおのずと線量も落ちる、と淡々と語る。

椀澤さんはとても長期的な視野でこの巨大震災から原発震災へと続く被災を捉えているのだ。

もう7カ月ではない、まだ7カ月だ。

これは僕も共通の認識を持っている。

僕たちは災害の真ただ中にいるのだ。

「みんなで飲むお酒が好きだ」

椀澤さんが笑って、そう言った。

沖縄や九州、横浜や北海道とバラバラに避難していった仲間もいるという。

「横浜に来る事があれば中華街を案内する」

僕たちはそう約束した。

講師として招くのも良いなど、今は考えている。

そうすれば宿泊費なんかも負担できるかもしれない。

みんなからのカンパで集まったお金から交通費など諸経費を差し引いた分を

椀澤さんに手渡す。支援に絡んだことではなく、個人的に使ってほしいと、個人的に思った。僕は彼にも健康に生きてほしいのだ。

道行くおじさんを引き留め、4人で写真を撮ってもらった。

巨大な搾取や、嘘や出まかせやが横行する世の中で、少なくともこの瞬間にだけは自分以外の誰かのために行動し、集まり、出会った4人である。

今様々に起きている問題に対し、物理的に解決が難しいことが沢山ある。

それでも、精神的にだけは、自分以外の誰かを想うこと、それをネットワークで繋げることにとても純粋な希望があると信じている。

「できることなら、すべての人を避難させたうえで徹底的に除染を行って線量を下げ、人々を戻してあげたい」

それが彼の本音であり、僕も同じ気持ちである。

そして、これが重要なことなのだが、それができるのは国家しかない。

国家は国民を守るために存在している。

そしていま、被災の中心で純粋で真っすぐな想いを持って戦っているひとりの国民が声もあげず、強い心を支えに、他者を守りながら、その助けを待っている。

助けを待っているのだ。